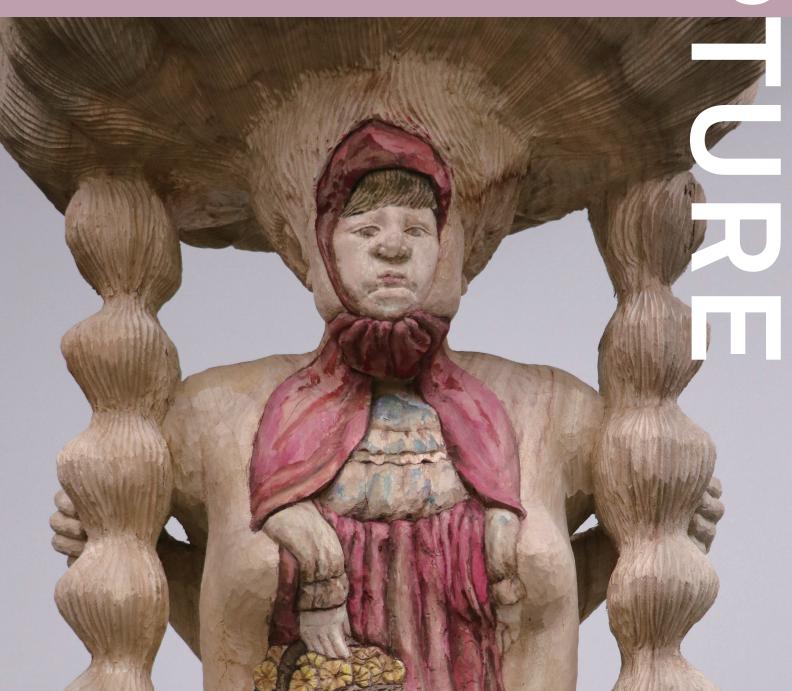
東京藝術大学美術学部|彫刻科

2021





はじめに

INTRODUCTION

130年以上前、東京美術学校が設置された時から、この場所ではひたすら「彫刻とは何か?」を日々問い続けてきました。変化し続ける社会情勢や地球環境に翻弄されながら、私たちの表現が変わらず導かれているのはこの問いとの接続です。原始から現代までの射程で彫刻を考察しながら、社会と彫刻を結び、伝統を継承し、革新を生み出す存在の出現を待っています。果たして彫刻という芸術に携わることが、私たちの未来や社会にとって有効であるのか、これから彫刻表現の可能性を一緒に探求しましょう。



沿革

OVERVIEW

彫刻科の歴史は、1887 (明治20) 年、専修科に彫刻科 (木彫) が置かれたことに始まります。その後、1899 (明治32) 年に塑造科が増設され、1949 (昭和24) 年、学制改革により東京藝術大学となると改めて彫刻科として再出発しました。

現在の上野校地の彫刻棟は1971(昭和46)年に施工され、1977(昭和52)年には博士後期課程を開設。現在、大学院生の一部は取手校地にて制作活動を展開しています。

彫刻科では、幅広い造形の研究に重点をおき、過去の美術の歴史や日本美術の伝統を踏まえながら世界に視野を広げ将来の美術を展望できるような豊かな感性を持つ人材の養成が重要であると考えています。また、将来作家として独創性あふれる自由な創作活動が行え、美術にかかわる諸分野での指導的役割が果たせるような人材の養成に努めています。

カリキュラムポリシー

EDUCATIONAL POLICY

〈学部〉基礎的な造形技術を習得し発展させながら、既成の領域にとらわれることなく、それぞれの学生の資質を生かす創作研究を行う。古美術研修や彫刻論などの講義を通し、豊かな教養を身につけ、現代における彫刻のありかたを探求する。最終学年には彫刻作品を制作し、卒業制作展で公開する。

〈修士〉彫刻表現を通して、広く社会に貢献しようとする高い志を持つ人材を育成する。学部で習得した基礎能力や技術を基に、広い視野から、より積極的、専門的な彫刻の表現、研究を行う。最終学年の修了制作展で成果を公開する。

〈博士〉修士学位取得者がさらに専門生の高い研究を深める。制作、研究、また学内外における発表や地域と連携したプロジェクト等、実践的な研究活動をもとに、彫刻作品、論文を作成する。最終学年に博士審査展にて研究成果を発表する。

指導教員一覧

STAFF

教授・准教授	林 武史 / 原 真一 / 森 淳一 / 大巻伸嗣 小谷元彦 / 大竹利絵子 / 西尾康之
客員教授	戸谷成雄
テクニカルインストラクター	石井琢郎 / 山口桂志郎 / 鈴木友晴 井田大介 / 井原宏蕗
助教	北山翔一
教育研究助手	稲垣 慎 / 小倉慎太郎 / 島田佳樹 / 石下雅斗 迎 星二 / 秋吉 怜 / 佐宗乃梨子 / 若林祐季

カリキュラム

1.2年次

CURRICULUM YEAR 1 & 2

1、2年次では、基礎過程として塑造をはじめ、木・石・テラコッタ・金属と、彫 刻において世界的に広く使われてきた素材の扱い方と基礎的な造形法を学び ます。2年次後期では自ら素材を選択し、発展させた作品を制作します。

カリキュラム

3年次

CURRICULUM YEAR 3

3年次前期は、彫刻表現のコンセプトを学んだり、空間への意識を高めたり、 表現の多様性を学びます。後期からは3つの講座と各素材及び専門領域に分 かれ、指導教員の元に研究を深めます。古美術研究旅行を通して日本彫刻の 歴史を体験します。



A. 木彫実習 B. 石彫実習 C. 金属実習 D. テラコッタ実習

E. 塑造実習

A. 石彫制作風景 B. 木彫制作風景 C. 選択実習 D. 塑造制作風景 E. 選択実習

Α	A	4	Α		
E	3	С			
E	В		7	Е	

カリキュラム

4年次

CURRICULUM YEAR 4

4年次ではそれまで学んできた集大成として、学生が主体的にテーマを見つけ 卒業制作に取り組み、一般公開となる卒業制作展へ臨みます。

カリキュラム

修士課程

CURRICULUM **POSTGRADUATE** 大学院修士課程では、より集中して専門的な創作研究をすることができます。 修了制作展では大学美術館・彫刻棟を会場として、より専門性の高い作品発 表を行います。

















	Α	В	D
	С		Е
			_

A. 後閑悠太郎《見え思う》素材:大理石 B. 中田愛美里《夢の肖像》素材:テラコッタ、映像

C. 木藤遼太 《ささやかな個人的ワールドレコード - Emotions, Pt. 20200820 - 》 素材: LP record、音

D. 横手太紀 《When the cat's away, the mice will play.》 素材: ミクストメディア E. 柿坪満実子《someday somewhere》素材: テラコッタ、セラミック、砂利

F. 齋藤圭一郎《Re;objects》素材:ミクストメディア

A. 栗田大地《個の諸要素》素材:樟、一木造り B. 林 玖《すんだの、しるしのダンス》 素材:木、着彩 C. 田中綾子《だいたい似たような夜ばかり》素材: 樹脂、コンクリート D.福島李子《The surface》素材:ぬいぐるみ、線、糸

А	В			
	С	D		

塑造 CLAY

彫刻科の 設備

FACILITIES DEPARTMENT OF SCULPTURE

彫刻科には伝統的に扱われてきた素材を専門的に扱うための研究室と設備が あり、各研究室教員の指導のもと、学生が自由に、かつ主体的に作品制作に 臨むことができます。また、取手校地では、主に大学院生以上の学生が制作し、 より高度で専門的な加工を可能とする共通工房を使用することができます。





1. シャーリング 2. フライス盤 3. 金属実習室

石彫







1. 石彫実習室 2. フォークリフト 3. 鞴 (ふいご)





1.窯 2.土練機 3.3階アトリエ





1. 取手石材工房 2. 石材切断用丸ノコ 3. 取手共通工房外観





1. 木彫実習室 2. バンドソー、自動カンナ盤ほか 3. 大鋸

その他の彫刻科による活動

1070

彫刻論

EXTRACURRICULAR ACTIVITIES:
ON SCULPTURE

彫刻科では、2・3年生を主な対象とする「彫刻論」という授業を開設しています。この授業では彫刻科教員だけでなく、現在活躍されている様々な作家や批評家、ギャラリスト、キュレーターなどを学外から招聘し、時にはゲスト講師と学生が意見を交わしながらのレクチャーを行うことで、彫刻や美術への視野をより広く、深くすることができます。

彫刻	論 招待講師一覧	1988	舟越 桂	1997	安藤栄作	2005	小杉拓也	2013	丸山富之
979	佐藤忠良		橋本裕臣	_	前野いわお		三輪三千代		佐藤 忠
	本間紀男	1989	中瀬廉志		一色邦彦		チャールズ ウォーゼン		松井紫朗
	井上武吉		藤田昭子	1998	島田勝吾		谷川 渥		拝戸雅彦
	建畠覚造		酒井忠康	_	鷹見明彦		中村哲也	2014	中島吏英
	土谷 武	1990	富松孝郁	_	倉林 靖	2006	山本和弘		中野仁詞
980	佐藤忠良		宮脇愛子		黒川弘毅		田中三蔵		鈴木友晶
	向井良吉		石井厚生	1999	小泉晋也		椿昇	2015	瀧 徹
	建畠覚造	1991	佐藤忠良	_	田窪恭治		北澤憲昭		田中 毅
	江口 週		河口龍夫	_	須田悦弘		古郡 弘		出原 均
	加藤昭男		飯田善国		村上 隆		前田哲明	2016	フロリアン クラール
981	湯原和夫		岡本敦生	_	上遠野敏	2007	原口典之		池島康輔
	福田繁雄		たにあらた		六角鬼丈		森 淳一		伊東敏光
	小田 襄	1992	村岡三郎	2000	松田誠一郎		棚田康司		西野康造
	桑原住雄		杉山惣二	_	吾妻兼治郎	_	小泉俊己	2017	安藤栄作
982	大平隆洋		柳幸典	2001	長谷京治		保井智貴		市川平
	矢内原伊作	•	前川義春	_	千田敬一		三沢厚彦		手塚愛子
	—————— 篠田守男	•	高島直之	_	奈良美智	2008	土屋仁応		中嶋大道
	掛井五郎	1993	黒川 員	_	南條史生		三田晴夫	2018	市原研太郎
	矢幡謙一郎	•	建畠晢	_	遠藤利克		北川宏人		岡部あおみ
983	三木多聞	•	池内 務	_	池田宗弘		藤井 匡		田中圭介
	若林 奮	1994	小畠廣士	2002	中村真木		金井 直		青野セクウォイア
	木村賢太朗		萬木康博	_	袴田京太朗		名和晃平	2019	森北 伸
	柳原義達		田中信太郎	_	石松豊秋	2009	佐藤好彦		菅原一剛
	速水史朗	•	川俣正	_	是枝 開		金氏徹平		飯田竜太
984	荒木高子	•	河口龍夫	_	水上嘉久		国井大裕 富井大裕		西川勝人
	川下成海		戸津圭之介	_	保田井智之		—————————————————————————————————————	2020	七搦綾乃
	堀口泰造	1995	吾妻兼治郎	2003	秋山七穂子		南嶌 宏		森靖
	鈴木 実		伊藤 誠	_	西 雅秋		河口龍夫		椿昇
985	伊藤茂之	•	保田春彦	_	渡辺英司	2010	廣瀬敏史		小田原のどか
	菅原二郎	•	多和圭三	_	小谷元彦		天野一夫		
	小清水 漸		関根伸夫	_	津田亜紀子		石川健次	特別	講義 招待講師一覧
	長谷川 栄	1996	高岡典男	_	西尾康之		鴻池朋子	1986	斎藤泰嘉
986	福田徳樹	•	蔡 國強	_	市川武史		岩崎貴宏		ミッシェル ムラー
	堀内正和	•	三輪龍作	2004	小林泰彦		高畑一彰	1987	安斎重男
	菊畑茂久馬	-	舟越 桂	_	水沢 勉	2011	樋口明宏		フィリップ キング
987	大木達美	-	本江邦夫	_	村井進吾		逢坂恵理子	1995	アンソニー カロ
	戸谷成雄	1997	川越 悟	_	大巻伸嗣	2012	東芋	2001	A. ゴームリー
		-	千葉成夫	2004	ヤノベケンジ		李 美那	2006	ミハウルマン
988	樋口正一郎	1997	柳 建司	_	長谷京治		棚田康司	2015	ジュゼッペ ペノーネ

※年数は年度表記です

Extracurricular Activities



企画展示 | 展示概要一覧

第1回 空間の変容 一彫刻のポテンシャルー 会期 1997年11月10日(月)-11月28日(金) 企画 小谷元彦 / 棚田康司 / 虎尾 裕 / 林 武史 / 深井 隆 / 森 淳一 出展作家 第2回 彫刻 一具象表現の解体と構築一 会期 1999年10月21日(木)-11月10日(日) 企画 出展作家 磯崎有輔 / 大巻伸嗣 / 北郷 悟 / 黒川弘毅 / 棚田康司 津田亜紀子 / 鳥原正敏 / 藤田隆康 / 舟越 桂 / 三沢厚彦

第3回 垂直の時間 彫刻 一過去・現在・未来一

2001年10月11日(木)-10月28日(日) 会期

企画

磯崎有輔/岡田晃典/清水淳/須田悦弘/澄川喜一/高島啓 出展作家 竹内紋子 / 奈良美智 / 深井 隆 / 三沢厚彦 / 米林雄一

第4回 彫刻の身体

会期 2003年7月1日(火)-7月21日(月·祝)

企画

出展作家 林 武史 / 河合勇作 / 棚田康司 / 森 淳一 / 原 真一 / 市川武史

渡辺英司+高木 哲

スキノデリック 一彫刻の表層一 第5回

2006年1月6日(金)-1月22日(日) 会期

企画 北郷 悟

伊藤 誠 / 奥田真澄 / 北郷 悟 / 清水 淳 / 高見直宏 / 塚本悦雄 出展作家

中村哲也 / 藤原彩人 / 吉賀 伸 / 古川 聖

第6回 物語の彫刻

2007年11月16日(金)-12月2日(日) 会期

企画

出展作家 一井弘和 / 大竹利絵子 / 小谷元彦 / 小俣英彦 / 小泉俊己

清水 淳 / 滝上 優 / 竹内智美 / 田中圭介 / 棚田康司

津田亜紀子 / 原 真一 / 深井 隆

第7回 彫刻 一労働と不意打ち― 会期 2009年8月8日(土)-8月23日(日)

企画 原 真一

出展作家 大竹利絵子 / 小俣英彦 / 今野健太 / 下川慎六 / 西尾康之

原 真一 / 深谷直之 / 森 靖

彫刻の時間 ―継承と展開― 特別企画

会期 2011年10月7日(金)-11月6日(日)

深井 隆 企画

〈近代以前〉快慶/肥後別当定慶/円空/正直/舟月/森川杜園

〈近代〉旭 玉山/高村光雲/竹内久一/山田鬼斎/高村光太郎 荻原碌山/朝倉文夫/石川光明/中原悌二郎/佐藤朝山

石井鶴三/橋本平八/平櫛田中

〈現代〉澄川喜一 / 手塚登久夫 / 山本正道 / 米林雄一 木戸修/深井隆/北郷悟/林武史/原真一/森淳一

大巻伸嗣/増井岳人

第8回 物質と彫刻 一近代のアポリアと形見なるもの一

2013年4月2日(火)-4月21日(日) 会期

企画

角田 優 / 佐々木速人 / 名倉達了 / 名和晃平 / 袴田京太朗 出展作家

林 武史 / 原口典之 / 深井 隆 / Mrs. Yuki / 宮原嵩広 / 森 靖

第9回 彫刻 ―気概と意外―

会期 2016年9月28日(水)-10月10日(月·祝)

企画

池島康輔 / 井田大介 / 伊東敏光 / 井原宏蕗 / 大竹利絵子

今野健太 / 高見直宏 / 原 真一

第10回 時間/彫刻 一時をかけるかたち―

2019年5月20日(月)-6月2日(日) 会期

林 武史 企画

出展作家 大巻伸嗣 / 大森記詩 / 川島大幸 / 北山翔一 / 小塚照己

篠田太郎 / 鈴木弦人 / 冨井大裕 / 林 武史

第11回 PUBLIC DEVICE 一彫刻の象徴性と恒久性一

会期 2020年12月11日(金)-12月25日(金)

小谷元彦 / 森 淳一

キュレーター 小谷元彦

共同キュレーター 小田原のどか

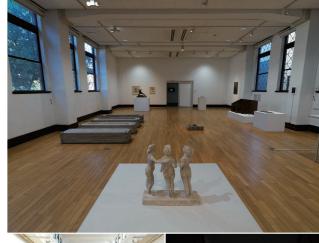
展覧会サポート 松下徹(サイドコア)

会田 誠 / 青木野枝 / 井田大介 / 大森記詩 / 小谷元彦

小田原のどか / 笠原恵実子 / カタルシスの岸辺 サイドコア / 島田清夏 / 高嶺 格 / 椿 昇 / 戸谷成雄

豊嶋康子 / 西野 達 / 林 千歩 / 森 淳一

菊池一雄 / 北村西望 / 本郷 新







[過去の展示風景] 第11回 PUBLIC DEVICE 一彫刻の象徴性と恒久性一 撮影:鈴木理策

広瀬里美 さん

彫刻科 学部4年生 (2021年現在)

入学動機

私はもともと平面に興味があり、美術を学べる高校に進学しました。彫刻は私の中では鑑賞するものであって自分がつくるものではありませんでした。しかしその高校では私と一つ程しか違わない先輩たちが彫刻作品をつくり展示していました。そこで彫刻というものが一気に身近に感じられ、「私もつくってみたい」と思い、立体の方向に進みました。その学びの中で、「軸」や「ねじれ」などの物体の表面ではなく、内側の、その物の在り方



《無、山、赤子》素材:テラコッタ

について触れ、まったく意味が分からず、「もっと知りたい」と強く思い、自宅から通えて学費も安い、国内唯一の国立芸術大学、東京藝術大学彫刻科に進学することを決めました。

私はほぼ盲目的に東京藝術大学を受験しましたが、浪人中に出会った人達や得られた経験は何にもかえがたく、それだけでも芸大を受験してよかったと感じています。

現在の活動

私の興味関心はずっと「存在」というものにあります。小学生時代から漠然と不可思議に感じていたと思います。私が生きているということが私にとって当然のことではなく、その観点から離れられずにいます。しかし、今までの制作を振り返ってみると、「生きる」「生きている」というところから、テーマが「存在の肯定」になり、今は「ただの存在」というものに重点が変化してきていることがわかりました。私自身現在も思考中ですが、これは「私」や「他者」のもつ自我や人間性から離れようとしているようなものに感じます。それに伴い、扱う素材も変化してきました。昨年まで粘土を好んで使っていましたが、



《無、山、赤子》(部分)素材:テラコッタ

今は石での制作を行っており、素材の持つ性質にもコンセプトは大きく影響してくるのだと実感しています。私は作品という枠を超えた、人間の人間でない部分、人間的でない、動物的で自然的な、もっと意識を持つ前の原始的で小さくて大きいものの在り方みたいなもの、そんなものを残せたら最高だと考えています。今後自分の興味がどのような方向に向かうかわかりませんが、昨年からのコロナ禍にあっても制作ができることに感謝し、一つ一つしっかり形にしていきたいです。

STUDENT VOICES

Kai Ono



7 小野海さん

入学動機

小さい頃、私は毎日粘土や針金で遊んでいました。机の上に自分で作った怪獣を並べて、作っては戦わせ、壊れてはまた作って、弟と2人でずっと架空の世界の中に没入して遊んでいました。両親は誰かがプログラミングしたゲーム機では無く、"素材の状態"の遊び道具を与えてくれました。買ってきた玩具よりも自作のモノで遊んでいる時間の方が圧倒的に多かったです。当時はただ遊びの一環でしたが、今思い返してみると、自分が欲しいもの・必要なものを自ら作ったり描いたりしていたあの頃の経験は、今の自分の創作の最も重要なベースになっています。

正直、その当時の気持ちの延長で大学に 入学しました。彫刻家になりたい!とかそん な明確な夢は無くて、なぜここに来たかと聞 かれれば"ただ作っていたいから"でした。 しかし、学部の4年間で自分の彫刻制作に 対する意識は大きく変わりました。幼い頃、 自分の世界の中だけで遊んでいた頃のモノ 作りとは違い、今は他者とつながる手段とし てもっと彫刻を学びたいと思い、大学院入学 に至りました。

現在の活動

ヒトは生活の中で、意味を感じるものに対しては受け入れ姿勢ですが、感覚的なものに対しては捉え方の基準がわからず、避けてしまうきらいがあると思います。そうなると社会において彫刻やアートの居場所がなくなってしまいそうで、不安になります。

人類が積み上げて来た社会性・文明はも ちろん素晴らしい面も多く、今の私たちの生 活はその上に成り立っていますが、自分も含 め、便利がゆえに仕組みや意味を知らず、も はやそれに疑問を持つことすら忘れてしまっ ていることも多いのでは?と感じています。 あらゆることがデータ化され、ボタン1つで 欲しいものが手に入り、スワイプ1つで行っ たことのない土地へ旅行した気分になる。そ んな生活を送っていると、手のひらサイズの タブレットの中が自分の世界になっていて、 体力は消耗してないのに心と脳だけ疲れて いる、みたいなことが起きます。そういった 現代の日常にある違和感と彫刻をつなげる ために、大学院では学部の時よりもさらに深 く、より集中して研究できる環境があります。

前述した通り、私は他者とつながるために 彫刻を制作しています。作品はやっぱり直 接見てほしい、できれば直接足を運んで。そのために、あえて写真などのデータ上では平面に見えるような作品を制作しています。どんな大きさなのか、できれば直に触れてみてどんな質感なのか、実体のないデータではなく、自分たちと同じ空間に存在している彫刻をいろんな角度から見て実感してもらいたい。実物を見るまではハッキリとは分からない。これは現代の世相を考えれば逆光しているのかもしれませんが、自分の彫刻制作においては大切な感覚です。



《Prism—七彩山》素材:アクリル毛糸、ジェスモナイト、ステンレス

卒業後の進路 CAREERS

学部卒業生の多くは、より専門的な研究を続けるために大学院美術研究科へ進学します。中には修士課程を修了後さらに、博士後期課程へ進む者もいます。また、彫刻科での経験を生かし一般企業に就職する学生も増えています。国公立・私立大学、高等学校・中学校の教員も主な進路としてあげられます。

近年の主な就職先

株式会社カプコン 株式会社京都科学 株式会社サイバーエージェント 株式会社スクウェア・エニックス 株式会社ソニー・インタラクティブ エンタテイメント 大日本印刷株式会社 株式会社TBSテレビ 東京国立博物館 日産自動車株式会社 日本科学未来館 株式会社 俄 NIWAKA 任天堂株式会社 株式会社博報堂 株式会社ビー・ファクトリー 株式会社平成建設 株式会社ポリフォニー ・デジタル 本田技研工業株式会社 株式会社ミキモト ほか

教育機関

愛知県立芸術大学
秋田公立美術大学
沖縄県立芸術大学
金沢美術工芸大学
静岡大学
都留文化大学

富山大学
広島市立大学

◆ 女子美術大学 多摩美術大学 東京造形大学 武蔵野美術大学

三重大学 ほか

五十音》

http://geidaichoukoku.com

編集・発行:東京藝術大学美術学部 彫刻科 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8 パンフレットに掲載されている情報は2021年5月のものです。 図版および文章の無断転載を禁じます。 ©2021 Department of Sculpture, Tokyo University of the Arts

